

平成 27 年 6 月 30 日、政策秘書課職員との話です。

これまで、市民のみなさんは、きっと、「税金を払っているのだから、すべて行政にお任せする」という考え方だったと思います。しかし、これからの人口減少社会では、市民と行政の関係は、「どうしたら一緒に課題を解決できるか考える」という関係に変わっていくことが求められます。

市民のみなさんが中心になって行政と一緒に考えるときは、小さい単位で考えることが良いと思います。市全体など大きい単位だと、どうしても問題や発言が他人事になりがちです。市全体で考えていると、捉えきれない課題もあります。

一方、小学校区単位など、互いの顔が見える範囲であれば、自分自身のこととして問題を捉え、発言にも責任が生まれるからです。

市民と行政の関係が、一緒に考える関係に変わったとき、市職員の役割は、市民のサポート役、事務局役になります。だからこそ、市職員は、地域に出て、多くの市民と話し、情報収集を行い、「地域のことは自分が一番知っている」という自負を持つことが求められます。

これまで、数多くのワークショップや話し合いの場を設けてきました。そこに参加された市民のみなさんは、「自ら考える力」を学んでこられました。

そうした市民のみなさんには、“ワークショップに参加して終わり”“学んで終わり”ではなく、さらに自ら地域の課題を見つけ、地域のみなさんや行政と一緒に話し合い、仲間を増やしてほしいのです。特に、定年後の男性にこれまで培った経験と知恵を生かし、地域で活躍をしていただきたいと考えています。65 歳以上のみなさんの活躍の場ができることで、実質的な高齢化率は、ぐんと減ることになります。

最初から完璧を目指す必要はない

防災訓練を例に挙げると、過去は、毎年 1 回、市内 1 カ所の小学校で行われていましたが、3 年前からは自治会連合会長、区長などを中心にした MJM（まちは自分で守る）会議の発案で、全小学校区で一斉に実施されるようになりました。

一斉に実施された当初、私からは「地域ごとに課題を見つけるために行うものなんだから、地域ごとに違っていいし、最初から完璧に上手いかななくてもいい」という話をさせていただきました。3 年経った今、それぞれの小学校区で工夫をしながら、いろいろな団体を巻き込みながら、市民のみなさんの力で実施していただいています。

防災訓練は、ほんの一例ですが、みなさんが持つ力を地域のために発揮していただ

きたいのです。市民のみなさんと行政と一緒に考え、行動することで、お互いに力が付きます。今から市民と行政と一緒に考え、ともに汗をかき、行動する取組みを始めれば、これからの人口減少の時代も乗り越えられるはずです。

以前、ある小学校の元校長先生を招いた講演会で「定期的に異動のある先生は風、住民のみなさんは土。風は吹き抜けるだけです。土である地域住民のみなさんにもっと地域に、学校に関わってほしい」という話を伺いました。

良い土を作るには、時間がかかります。化学肥料を使って促成栽培するよりも、無農薬・無肥料の方が、手間暇がかかっても、より体に良いもの、より美味しいものができます。

人口が減っていく時代には、下の表にあるような地域のみなさんが主体となるまちづくりが、やりがい、生きがいづくりが必要であると私は考えています。

人口減少社会では、価値観が大きく変わっていきます。目に見えないもの、数値化できないものが評価される時代になっていくのです。

人口増加の時代（今まで）	人口減少の時代（これから）
役所・コンサルタント・学者（専門家主体）	住民（地域住民主体）
モノづくり・仕組みづくり・仕事	人づくり・まちづくり・生きがい・やりがい
法律・規則通り（当てはめ） 効率的に	一人ひとりを見る （融通無碍/自由にのびのび）、手作り
義務感	達成感
困ったことはお金で解決 行政にお任せ →楽で快適	地域住民の話し合いで解決を目指す おせっかい →わずらわしいこともある
化学肥料、促成栽培 ・早くできる ・効率が良い ・画一的 ・単年度予算 ・一か所でまとめて、その場限り	天然酵母、無肥料、自然栽培 ・ゆっくりで手間暇がかかる ・マメさが必要 ・不揃い ・単年度予算には合わない ・分割ができる
早く目に見える	失敗、遠回りもある
参加者の数で評価	参加者の汗の量で評価

～市長の話を聞いて～

最近、熊本県水俣市の職員や関係者の方と話す機会があり、「恵まれている長久手市の職員は、志を高く持たないと何も成し遂げられないぞ」とハツパをかけられました。私たち市職員は、目の前の仕事に追われるだけでなく、「自分のまちを将来、どうしたいのか。そのために自分は何ができるのか」について、もっと深く考える必要があると感じました。

課題解決を話し合うのは、敷居が高いかもしれませんが、「将来の長久手像は？ 自分はどんなまちに住みたい？」

そんな夢から、みんなで語り合って、共有しませんか？ そこに正解はありません。だからこそ、いろいろな意見が飛び出して、そこから何が生まれるか楽しみです。